

2023 年度
事業計画書

2023 年 4 月 1 日から

2024 年 3 月 31 日まで

学校法人千代田学園

1. 学園の基本方針等

1) 学園の創設

学校法人千代田学園の始まりは、真言宗盛松寺住職の故高橋道雄師が、第二次世界大戦後の荒んだ世相を憂いて、庶民のために学問所を開いた弘法大師空海（774 - 835 年）の偉業に倣い、1950 年に千代田高等学校、附属幼稚園を開設したところに遡ります。本学園は、その後、1965 年に大阪千代田短期大学も開学しました。

2) 学園の建学の精神

空海は、身分や貧富にかかわらず門戸を広く庶民に開放し、あらゆる思想・学芸を総合的に学ぶことができる私立学校「綜芸種智院（しゅげいしゅちいん）」を創設（829 年）し、そこで多くの前途有為な青年を育てようとしていました。

本学園は、この空海の精神を受け継ぎ、建学の精神を「人間教育」としています。本学園の「人間教育」は、若い世代に豊かな人間性を培うとともに、平和で民主的な社会の形成者として必要な知識、教養と、それに基づいた技術を教授することにより、社会や地域を支え、また支えられる人間を育成することを基本的な考え方としています。

3) 学園の使命

「人間教育」の具現化として、本学園は、社会的共通基盤を担う教育、福祉、医療など対人援助職の分野を指向する若人が輩出する学園づくりをミッションとしています。

本学園がこれまで積み上げてきた、一人一人が自らの人生の主人公として生きる力（主権者教育）の成果を土台としつつ、志や目標を持って本学園に入学してきた学生・生徒・園児たちとその保護者の期待に応えていくための教育の創造に全力で取り組みます。

4) 学園の中期計画

本学園では、2021 年度から 2025 年度までの 5 ヶ年を計画期間とする「第三期学園振興中期計画」（以下、「中期計画」という。）を、2021 年 12 月に策定しました。

中期計画では、本学園の教育活動の永続性を保証するために、財政基盤の確立を中心課題とし、あわせて総合学園としての各校種（短期大学、高等学校、認定こども園）の教学上の改革課題を取りまとめています。

5) 2023 年度の事業計画

2023 年度事業計画書は、中期計画で示した財政上および教学上の課題・目標を解決し実現するための年次ごとの計画として、2023 年度に、各校種及び法人本部において取り組む主な事業計画の具体的な内容を示したものです。

2. 大阪千代田短期大学の事業計画

1) 定員確保

- ◎学生満足度を高め、2024 年度入試において入学定員 100 名を確保します。
- 公立高等学校(大阪、和歌山、奈良他)と連携を強め入学生の確保を図ります。
- 同窓会と連携し田辺市(6/25)をはじめ遠隔地でのオープンキャンパスの実施、入学者支援策等(下宿補助を含む)を実施し学生を確保します。
- 大阪暁光高等学校入試広報室と連携し、私立高等学校における募集活動を強化します。
- ホームページ、Instagramをはじめ広報活動を効果的に推進します。
- 重点指定校奨学金等奨学金制度の抜本的な見直しを行います。
- 学生確保のために幼児教育科内に新コースの立ち上げを検討します。
- 社会人学生確保のためにコース(難波サテライト教室他)の立ち上げを検討します。

2) 総合学園としての魅力・教育力の創造と向上

- ◎『冒険遊び場』(「ちよたんの森」・「砂場」・「ちよたんルーム」)の活用と一般開放を進めます。大阪千代田短期大学附属幼稚園との連携を強めます。
- 大阪暁光高等学校幼児教育コースとの連携を強化します。また、5年一貫カリキュラムを策定するため、教員間交流を進め高短一貫あり方会議の充実を図ります。
- A L (アクティブラーニング)、P B L (課題解決型学習)、アウトリーチ型の学習(学外での実践的な教育活動)などカリキュラム並びに授業改革をすすめます。
- 外部資金の獲得(私立大学等経常費補助金、科研費他)をはじめ、紀要など教員の研究活動を推進します。

3) 瞳かがやき、生きる希望を育む教育の推進

- 教育理念及び3つのポリシーについて、具体的な学生像に基づき外部評価の結果も含めて点検・評価します。
 - 本学学生の良さを一層伸ばしつつ、実践力や教養、マナーを身につけた保育者を社会に送り出すための具体的な取り組みを検討します。進路・就職活動の充実化を図ります。
 - 学生の大学内アルバイト(スクールワーキング)を拡張します。
 - 学生の学習支援・生活支援をすすめ、退学防止プログラムなど退学を防ぐ体制をつくりま
- す。

4) 学園改革と高野山大学との連携教育活動の推進

- ◎高野山大学とFD活動、SD活動、大学祭、クラブ・サークル活動等で協働し、教育効果の向上やキャンパスの活性化等を図ります。
- 高野山大学と授業連携、研究連携をはじめ「基幹教員制度」の検討を始めます。
- 高野山大学教育学科への編入を拡大します。

5) 地域との連携・社会貢献活動の推進

- 地域教育・福祉総合センターの活動内容を発信します。
- こども食堂の実施に伴うボランティアなど学生の社会貢献活動をすすめます。
- ◎かつらぎ町、河南町、阪南市、河内長野市との連携を実質的にすすめます。

6) 学園関係者のネットワークと教育研究所の創設

- 三校種合同の行事の実施など学園内の連携を深めます。
- 同窓会と連携しホームカミングデーなど、OG、OBのニーズを活かした行事を行います。
- 後援会との連携を強め大学祭等の協力を得ます。

3. 大阪暁光高等学校の事業計画

生徒の瞳かがやき 社会から信頼される学校へ

1) 生徒募集について

- (1) 2024 年度入試において、全ての科・コースにて定員を確保します。そのために
- ① 科コースの魅力を分かりやすくすると共に、“大阪暁光の学校生活”を実感するオープンスクールを行います。
 - ② 中学生が情報を入手しやすいホームページ・SNS 企画を促進し、毎日更新をおこないます。
 - ③ 広域を対象とした募集活動を行い、受験中学校数を 150 校以上確保します。

2) 総合学園としての魅力・教育力の創造と向上

- (1) 大阪千代田短期大学との共同的な学びを進め、5 年一貫の教育課程の構築に取り組みます。
- ① 千代田学園が目指す保育者の育成に向け、教育課程づくりをすすめます。
 - ② 高短連携授業を生徒の実態に噛みあったものに改善します。
 - ③ 高短 5 年一貫教育あり方会議、幼児教育コース会議を充実させ、教育の具体化と検証を行います。
 - ④ 授業や行事を通じて生徒・学生・教職員の交流を図ります。
- (2) 短大附属幼稚園(こども園)での実習や交流を促進します。

3) 瞳かがやき、生きる希望を育む教育の推進

- (1) 生徒の学校生活の中心である授業を充実させるための「授業改善計画」を実施します。
- ① 5 つの観点を大切に魅力ある授業づくりを進めます
 - ❖ 教科目標・科目目標を明確にすると共に、基礎的・基本的能力を共有し、習得する手立てを構築する
 - ❖ 「問い」と「対話」を重視し、生徒同士が学び合う魅力ある授業をめざす
 - ❖ 学びに向かう姿勢を育むクラス活動を積極的に推進する
 - ❖ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりをすすめる
 - ❖ 時代の要請に対応し、ICT を取り入れた授業を推進する
 - ② 学習規律のある教室空間づくりを進めます

③教員の授業力アップを図ります

- (2) 看護科、幼児教育・教育探究コースは特色ある教育活動を追求します。
- (3) 進学総合コースは「総合的な探究の時間」や特別活動等を通して、「将来の自分」を考える機会を作ります。
- (4) 生徒全員への適切な進路指導をおこないます。
- (5) 登下校時や学校内の生活におけるルール・マナー等の社会性を身に付け、自律的に行動する力を育成します。
- (6) 生徒全員が安心して学校生活を送ることができるよう丁寧な個別対応を行います。
- (7) クラブ活動やスタディーツアーなどの課外活動にとりくみます。
- (8) 教職員が社会や時代の変化を受け止め、対応できるよう研修を実施します。

4) 高野山大学との連携教育活動の推進

○特別授業の企画や学生・生徒・教職員間の交流を行い、高野山大学との連携を強めます。

5) 社会に開かれた教育、地域との連携

○防災訓練やイベントへの参加、中学校のクラブ大会の開催などを推進します。

6) 学校運営

- (1) 「学校週5日制」を有意義に運営し、教員の働き方についても検討します。
- (2) 中期的視点を持った指導体制を確立します。
- (3) スクールコンプライアンスを遵守し、生徒が安全で安心できる学校づくりを推進します。

4. 大阪千代田短期大学附属幼稚園の事業計画

1) 定員確保

- 2024 年度園児数として、120 名を確保します。
- 2022 年度から募集開始した 3 号認定の 1 歳児について、受入人数を増加します。
- 「ちびっこ広場」などの未就園児活動や積極的な情報発信を継続します。

2) 総合学園としての魅力・教育力の向上

- 短期大学のキャンパスでの活動機会を増加させるとともに、短期大学及び高野山大学と連携した教育活動を実践します。「ちよたんの森」や短大グラウンドでの活動、畑づくり・収穫などの取り組みを活発にします。
- 高等学校と行事やクラブ活動等との連携活動を実施する。幼稚園の預かり保育に参加するなど、園児との関わり方など学ぶ機会を作っていきます。
- 高等学校及び短期大学の学生生徒が園で実習するにあたり、情報の共有や課題の調整を十分に実施するとともに、受け入れ態勢を強化します。
- 短期大学との共同研究について、より協力し、進めていきます。

3) 幼稚園における教育・保育改革の推進

- 非認知能力を醸成する取り組みを発展させます。
- 高等学校の幼児教育コース教員と連携し、1 歳児の保育活動を確立します。
- 年 2 回実施する保護者アンケートを踏まえ、保護者ニーズを踏まえた園づくりを検討します。
- 発達に課題のある園児について、「さんさんクラブ」及び短期大学との連携体制を強化します。
- 2022 年度実施の学校関係者評価及び自己評価について適切に公表します。

4) 地域との連携、社会貢献活動の推進

- 校区の「あいさつ運動」や「バラエティフェスタ」などの地域の諸行事に参加します。
- 高等学校や短期大学と連携した独自の地域貢献活動を検討します。

5) 学園関係者とのネットワーク

○卒園児や保護者の会等とのネットワークを強化するため、積極的な情報発信を実施します。

5. 学校法人千代田学園法人本部の事業計画

1) 財政改革

- 2023 年度の貸借対照表における運用資産（特定資産＋現金預金）を 6 億 7000 万円を目途に労使で協議していきます。そのためには、何よりも収入を増やすこと（短期大学入学者数 100 名の確保、高校から短大への内部進学者 60 名の確保）が重要であり、各校種と連携し、その目標実現に努めます。
- 2023 年度の予算執行に当たり、教育研究経費・管理経費の支出を 2022 年度当初予算の 10% 削減を目標に取り組みます。
- 現在設置している「法人本部会議」において、継続して学園経費の抑制、教職員の給与体系見直しを踏まえた人件費の構築等、財政改革の具体策を立案していきます。
- 学園財政について、教職員の理解を得るための説明会を継続して定期的を開催します。

2) 人事施策

- 教職員の適正な人数と適正な配置について、法制度の基準を踏まえ、具体案を継続して検討、作成します。
- 教職員の働き方改革について、各校種と連携して検討をすすめます。
- 人事考課制度の導入に関する調査・検討を実施します。

3) 学校法人としてのガバナンス

- 私立学校法改正の動向を見据え、理事会や評議員会などの体制や寄附行為等の見直しを引き続き検討します。
- 各種法令や寄附行為を遵守し、学園全体として適正かつ機動的な運営を持続します。

4) 各校種の連携強化

- 法人本部が中心となり、各校種の広報活動の一層の連携強化をすすめます。
- 各校種間の円滑な連携が可能となるよう協力・支援します。

5) 業務執行の効率化

- 経費精算システムについては、まだ完全運用には至っておらず、迅速かつ効率的に決裁や予算の執行管理が可能となるよう、委員会を立ち上げ、2023 年 9 月の本格的運用開始に向

け、取り組みをすすめます。

○勤怠管理システムについては、さらに運用の効率性を向上させます。

6) 施設設備の整備

○財政状況が厳しい中で、教育活動に必要な施設設備については、優先順位をつけて、各種と調整の上、計画的に実施可能となるよう協力・支援します。